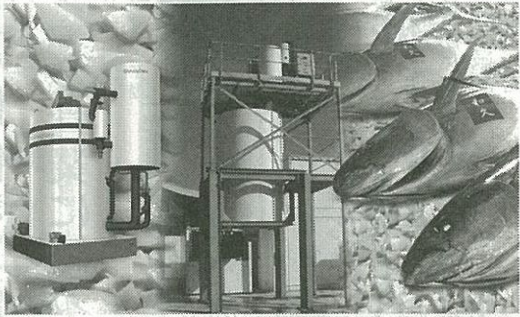


冷熱を創造する

エンジニアリングカンパニー

ジェネグラス フレークアイス製氷機



柴田溶接工作所は圧力容器、熱交換器、冷水チラー、急速凍結、氷蓄熱、フレークアイス製氷機、低温ロジスティクス、アイススケートリンク、人工造雪機など様々な冷熱分野を設計、製作、施工のエンジニアリングでサポート



ショールーム7月にオープン

有限会社 柴田溶接工作所

〒816-0921 福岡県大野城市仲畑2丁目2番43号

TEL 092-501-9798 FAX 092-575-1213

E-Mail info@swc-jp.com http://www.swc-jp.com

柴田溶接

製氷機を軸に受注好調

OEMで大型二元を継続生産

産業用製氷機を主力とした冷熱プラントメーカーである柴田溶接工作所(社長●柴田勝紀氏、本社・福岡市南区塩原三二一〇)の受注が堅調だ。欧州最大の製氷機メーカーであるフランス・GEAジェネグラスの国内代理店として注力する製氷機は、熱交換器効率が高いフレークアイスが漁協市場に定着、安定した引き合いを獲得するとともに直近ではジェネグラスの世界ネットワークを活用しつつODA(政府開発援助)案件にも参画、実績を挙げつつある。またOEM製作では二元冷凍装置を連続して受注、直近では二百二十馬力機

動製氷タイプとして標準化。製氷形状もフレークアイスのほか、チップ・シャーベット、プレート・ブロックにも対応するなど総合力をかさ上げしている。

もの。シ社ネットワークの活用は、保守サービスを含めたコスト対応力の強化、使用言語を含めた現地折衝の円滑化などを狙ったもの。西アフリカの水産市場を対象にした案件では日産四トの製氷・貯氷庫二基のほか、二部屋の冷蔵庫を受注、今秋に竣工する。〇九年度の製氷・冷蔵関連のODAはアフリカ、オセアニア、カリブなど複数の候補が計画されており、同社は原設計の支援を行いながら受注対応を行っていく考え。

製氷機は現行、大手商社の扶洋(本社・大阪府)のほか船用エンジンメーカー、ショーケースメーカー、電力会社系メーカーなどに商流を広げるほか、自社営業を平行しつつ水産分野を中心に展開。とくに熱交換器効率が高いフレークアイスでは製氷設備を付帯する漁協での認知度を高め、直近も山口地区からの引き合いを獲得するなど順調。同社では「漁協施設でのフレークアイスの認知度は定着してきた(柴田社長)とし、フレークアイスに先導的に取り組んできた成果を指摘する。

産業用製氷機ではODA(政府開発援助)案件にも参画し、実績を付けている。国内のコンサルタント会社と連携して成約、現地対応ではシ社の世界ネットワーク(施工・保守)を活用して対応した

超低温用二元式スクリーン冷凍機の受注が連続しており、五基(350馬力4台、220馬力1台)を既納入したのに続き、近く二百二十馬力二台の製作に入る。スクリーン冷凍機では空調案件にも対応、埼玉県や福岡県内の複数の物件向けに納入する。またアンモニア施設の改修では、レシーバや高圧容器などの機器製作、フリーザー冷凍機の製作などを重ねている。

平均年齢35歳、次世代西冷工が「青年」

西日本冷凍空調工業会が次世代青年会員で構成される「青年部会」の設立準備を進めている。福岡冷空工の会員を中心に十四社が候補となり、部長には津福一宏、津福冷機工業・室長の就任が予定。候補メンバーは二十九歳から四十二歳までで平均三十五歳。西冷工の委員会予算で運営。正式な設立は候補

常設展示場を7月に開設

柴田溶接が常設展示場(シヨールーム)を開設する。ジェネグラスの製氷機シリーズのほか、熱交換器をはじめと

する自社冷熱製品、冷凍機などの扱い商品を表示し、商品情報を発信するのが狙い。本社に近い福岡市南区塩原に用地を確保しており、二階建て延べ約二百二十平方メートルで建設する。オープンは七月末の予定。



二元冷凍機

ダンパー、吹出口の大手メーカーである協立エアテック(社長●久野幸男氏、本社・福岡県篠栗町)の〇八年十二月期決算は、連結売上高が過去最高となる八十三億二千六百万円となった。前期に比べて三・四%増。ダンパー、吹出口を中心にしたビル設備部門が工場向けに好調受注た